

林社長が科学探検隊立上げ

子どもにもものづくり教室

ミニカー作り

大和小で開く

漏水検出装置や剥離口ホットの開発と販売、災害状況監視システム、電子顕微鏡ステーションコントロールソフトなどの制御ソフトの開発を行っている(株)テクノシステムズ

大和市中下鶴間三八五四、テクノプラザ大和内の林正幸社長が六月十四日からの土曜日、四

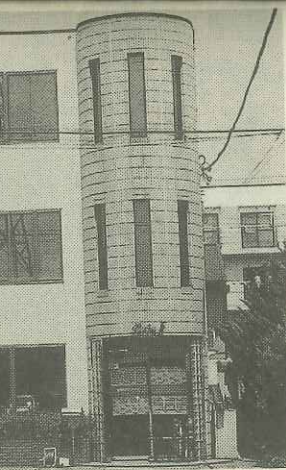
「電池のいらぬレーシングカーを作って競争しよう」。教室は同小多目的室と体育館で十四、二十一、二十八日と七月十二日の午後二時から四時までの二時間。対象は三年から六年生の定員二十人で保護者の見学も受けつける。

林社長の指導で児童が

出会った。ISO認証機関であるIRCAとJRC Aの品質システム主任審査員を務める宮田紀世夫氏(アシナー・ビジネス

の幅を広げること狙いに昨年、ISO事業部を新設し、社員一人を配属した。「質の高いコンサルを

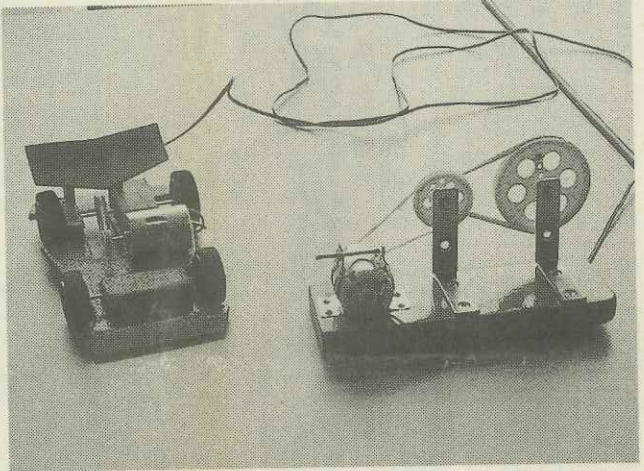
め、十社の参加を得た。十一月にはさらに一歩を進めたセミナーを開催し四社が参加。経営陣の役割、取得過程での問題



格化させる(株)登臨

力生かす 事業部

「これまでに一社から受注したが、本格的な営業展開はこれから。医療、福祉関係の分野でのニーズは増えていると考えており、地域の企業に気軽に参加してもらえ入門セミナーなどを開催していきたい」と話す高橋社長。地元での実績を積み上げ、将来は地方に拠点を広げていくことも視野に入れている。



教材に使うミニレーシングカー

初日に電磁石、二日目に超簡単モーター、三日目にレーシングカーを制作い

製品を持ち帰れる。参加賞は部品代にあたる二千円、教室には宙に浮くコマ、児童らが操縦できるラジコン飛行船、ヘリシミュレータが展示される。林社長は日立製作所勤務を経て九一年に同社を設立、一方で八五年に幼稚園、〇二年に保育園を開園している。そうした教育の延長として将来の科学者、技術者の卵を育てようと、小学校高学年の児童を対象にした理科、科学、工作に関わる教室の企画から教材の開発などを行うボランティア団体科学探検隊を昨年立ち上げた。

その試みとして昨年、自らが開発した「簡単ヘリコプター」電池のいらぬ電気自動車」を教材に生まれ故郷の長野県飯田市で科学教室を開き、信濃毎日新聞など地元メディアにも取り上げられた。今回大和小の科学教室もこうした試みの一つとして行うもので、八月には寒川町の小学校でも行う予定という。同探検隊はまた、NPO化も目指しており、ボランティアの協力者を募っている。子どもと理科に関心がある高校生以上で、十人ほど募集している。問い合わせは同社046-278-3650。

工業パージン 津久井に新工場 宇宙関係部品を製造

人工衛星やレーダー関係の部品などを製造しているスパージン工業(株)(東京都稲城市、資本金八千四百三十九万円、

野山一曰社長は五月二十三日、津久井工場(津久井町長竹字境沢三五一

同社は一九五七年、稲城市に誕生して以来、本社工場のほか千葉、盛岡、宮崎にグループ工場を設けるなどして成長を続けている。大型の設備、機